

# 附属物（標識、照明施設等）定期点検要領

## 参考資料

～ 客観的な判定を行うための具体例 ～

令和4（2022年）年3月

北海道建設部建設政策局維持管理防災課

－ 目 次 －

1 はじめに	1
2 点検部材と名称	1
3 損傷の種類	17
4 損傷内容の統一化	18
5 判定の統一化	20
【参考例】 判定区分（道路標識・道路情報提供装置）	21
【参考例】 判定区分（道路照明施設）	37
【参考例】 判定区分（防雪柵）	53

## 1 はじめに

定期点検の目的は、道路附属物の変状を早期に発見し、対策の要否を判定することにある。定期点検を通じて附属物の現状を把握するとともに、落下や倒壊等に伴う第三者被害を未然に防止し、安全かつ円滑な道路交通の確保を目指すものである。

ここで、膨大な数を有する附属物の維持管理を効率的・効果的に行う上では、定期点検の結果に基づき、北海道が管理する附属物全体の現状をある一定のレベルで把握することが重要となる。

このため、定期点検における健全性の診断は、点検にあたる者の主観にとらわれることなく、客観的な判定に基いて行われる必要がある。

本資料は、平成 25 年度から実施したストック点検時の写真を用いて、各施設、各部材毎に損傷内容の判定例を示したものである。定期点検の実施目的を踏まえ、客観的な判定を行う上での参考として活用されたい。

## 2 点検部材と名称

附属物は、機能や役割の異なる部材が組み合わされた構造体であり、部材毎の変状や機能障害が施設全体の性能に及ぼす影響は、形式等によって大きく異なる。

また、補修補強等の措置は、一般に必要な性能を回復するために部材単位で行われるため、点検は表-1 に示す部材単位毎に区分して行われる。

表-1 評価単位の区分と主な点検箇所

評価単位の区分 (部材)	主な点検箇所（弱点部となる部材等）	
支柱	支柱本体	支柱本体、支柱継手部、支柱内部
	支柱基部	リブ取付溶接部、柱・ハースプレート溶接部、路面境界部（GL-0mm、GL-40mm）、柱・支柱境界部
	その他	電気設備用開口部、開口部ボルト
横梁	横梁本体	横梁本体、横梁取付部
	溶接部・継手部	横梁継手部、横梁仕口溶接部
標識板	標識板及び標識板取付部	
灯具	灯具及び灯具取付部	
道路情報板	道路情報板及び道路情報板取付部	
防雪板	防雪板及び防雪板取付部	
矢羽根	矢羽根及び矢羽根取付部、補助標識等 <sup>(注)</sup> 及び補助標識等 <sup>(注)</sup> 取付部	
基礎	基礎コンクリート部	
	アンカーボルト・ナット	

(注)ソーラーパネル、センサー等を含む

主な点検箇所の概略図を図-1～図-10 に示す。

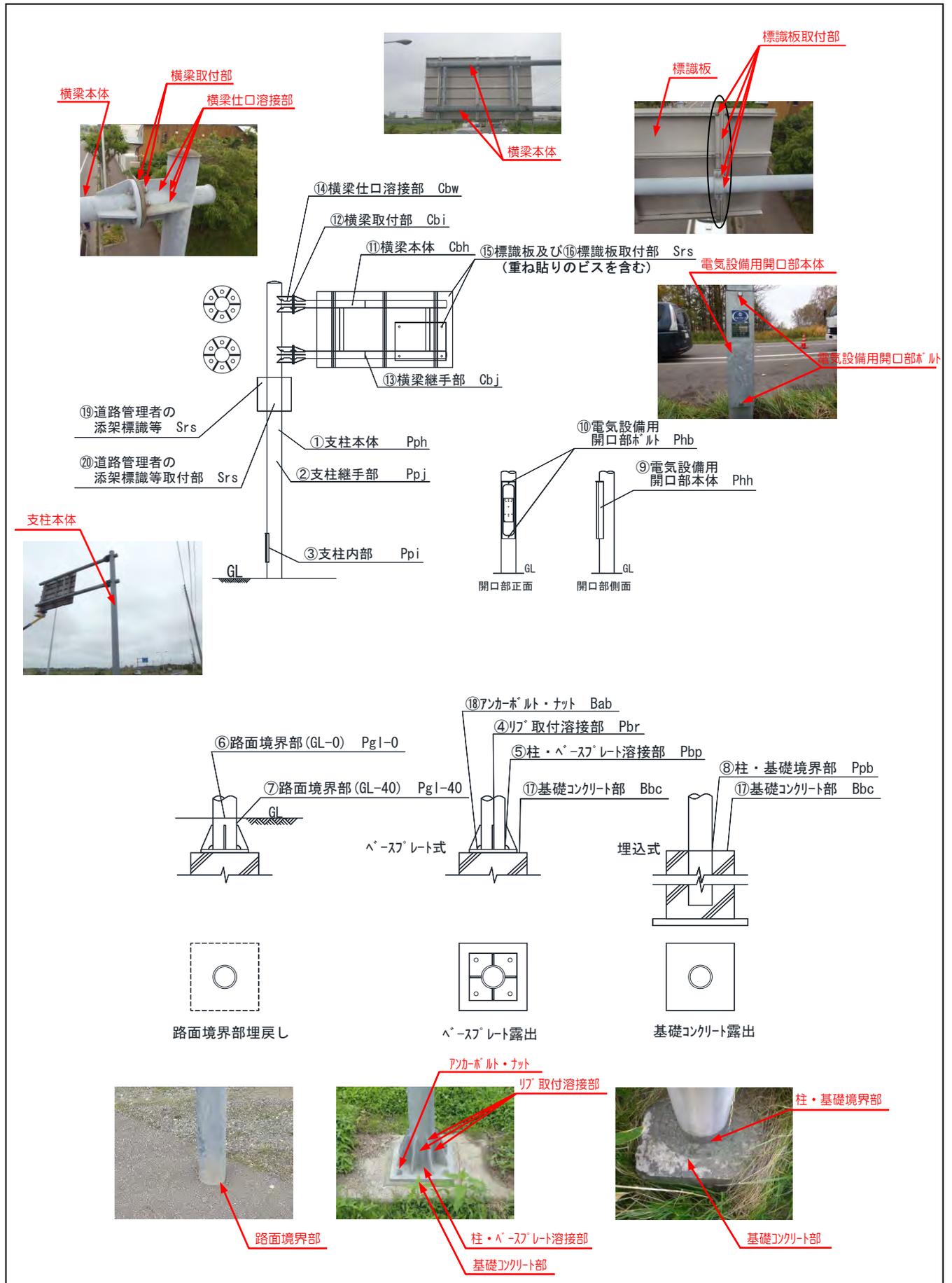


図-1 主な点検箇所 (道路標識：F型)

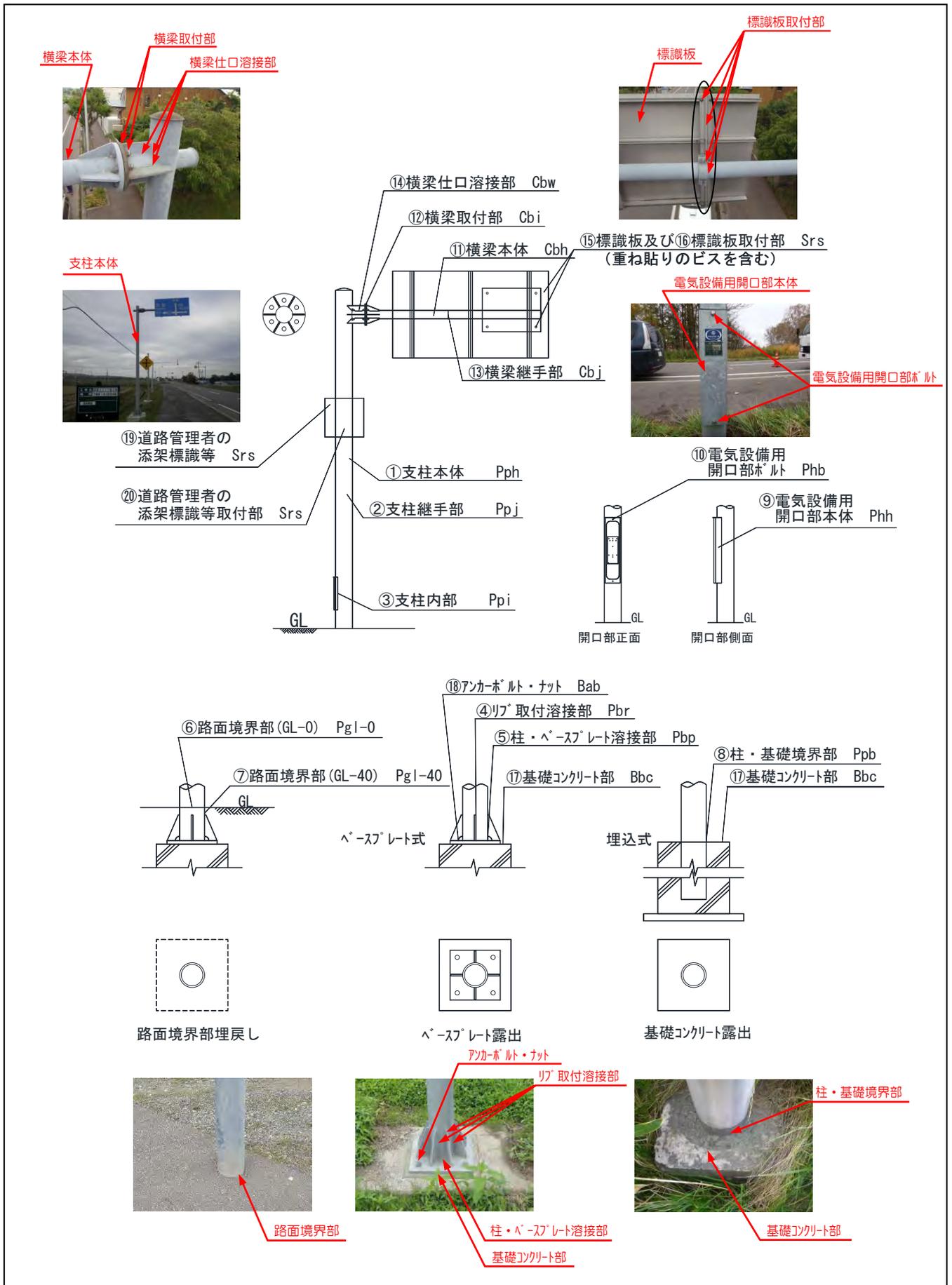


図-2 主な点検箇所 (道路標識：逆L型)

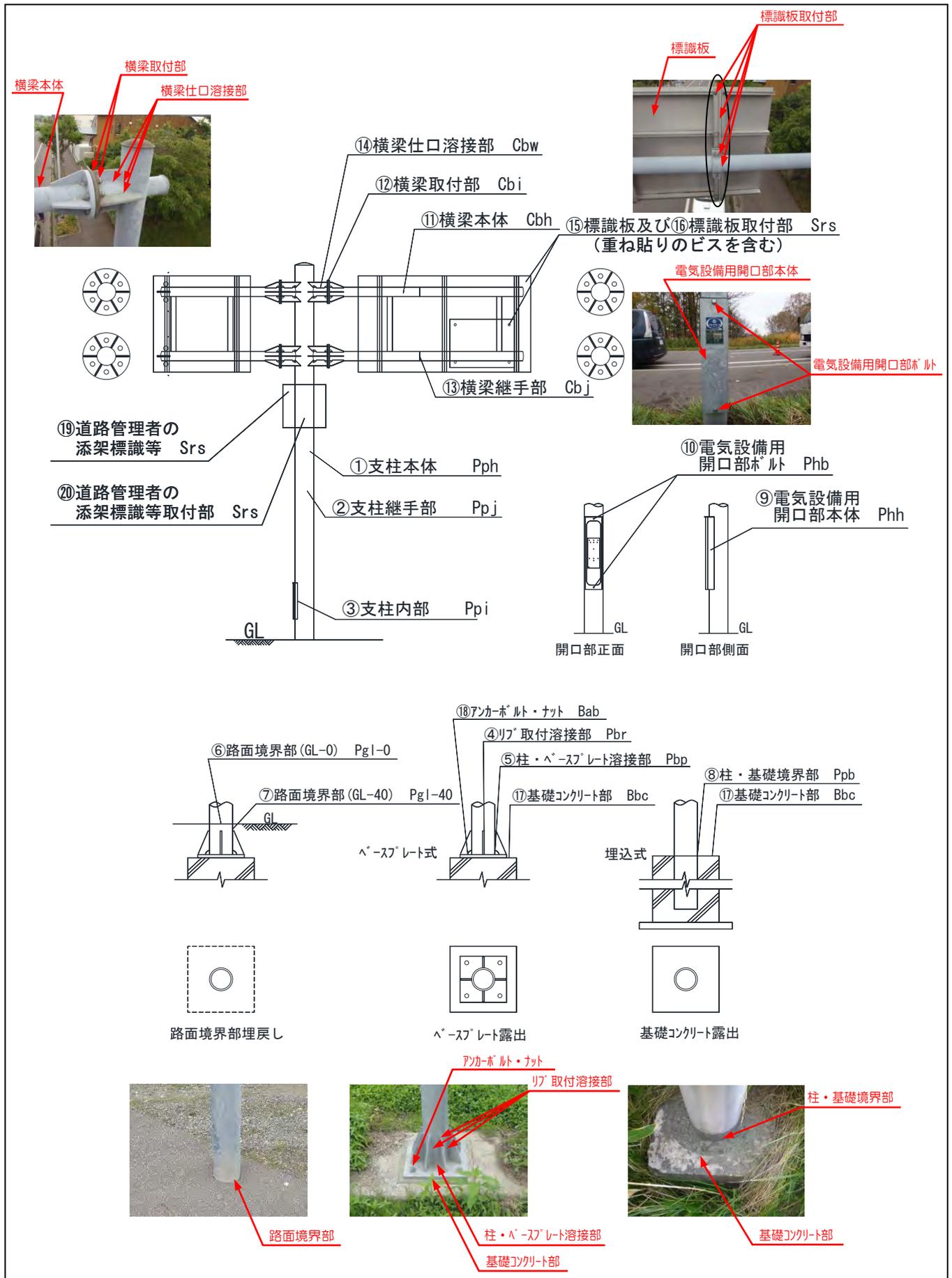


図-3 主な点検箇所 (道路標識 : T 型)

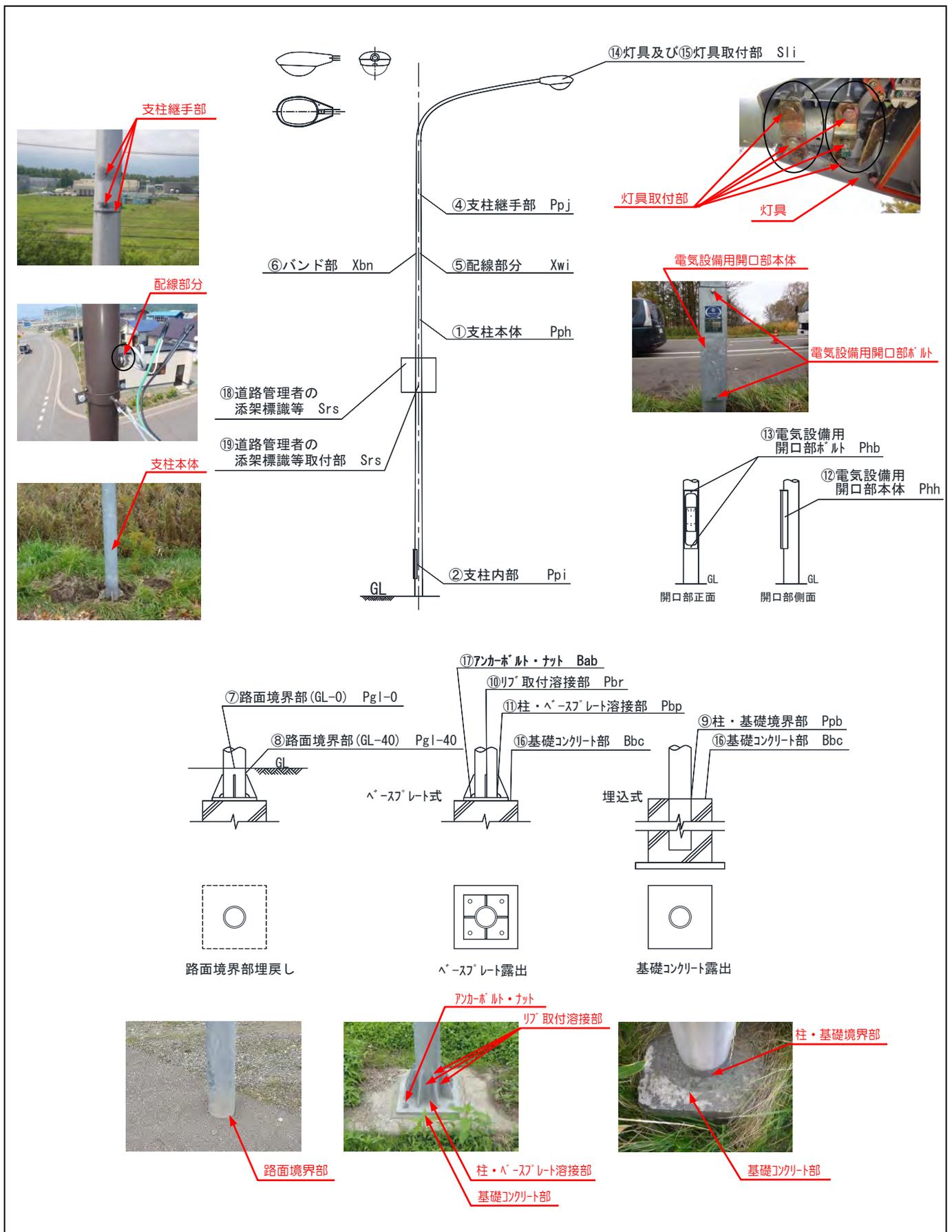


図-4 主な点検箇所 (道路照明施設：逆L型)

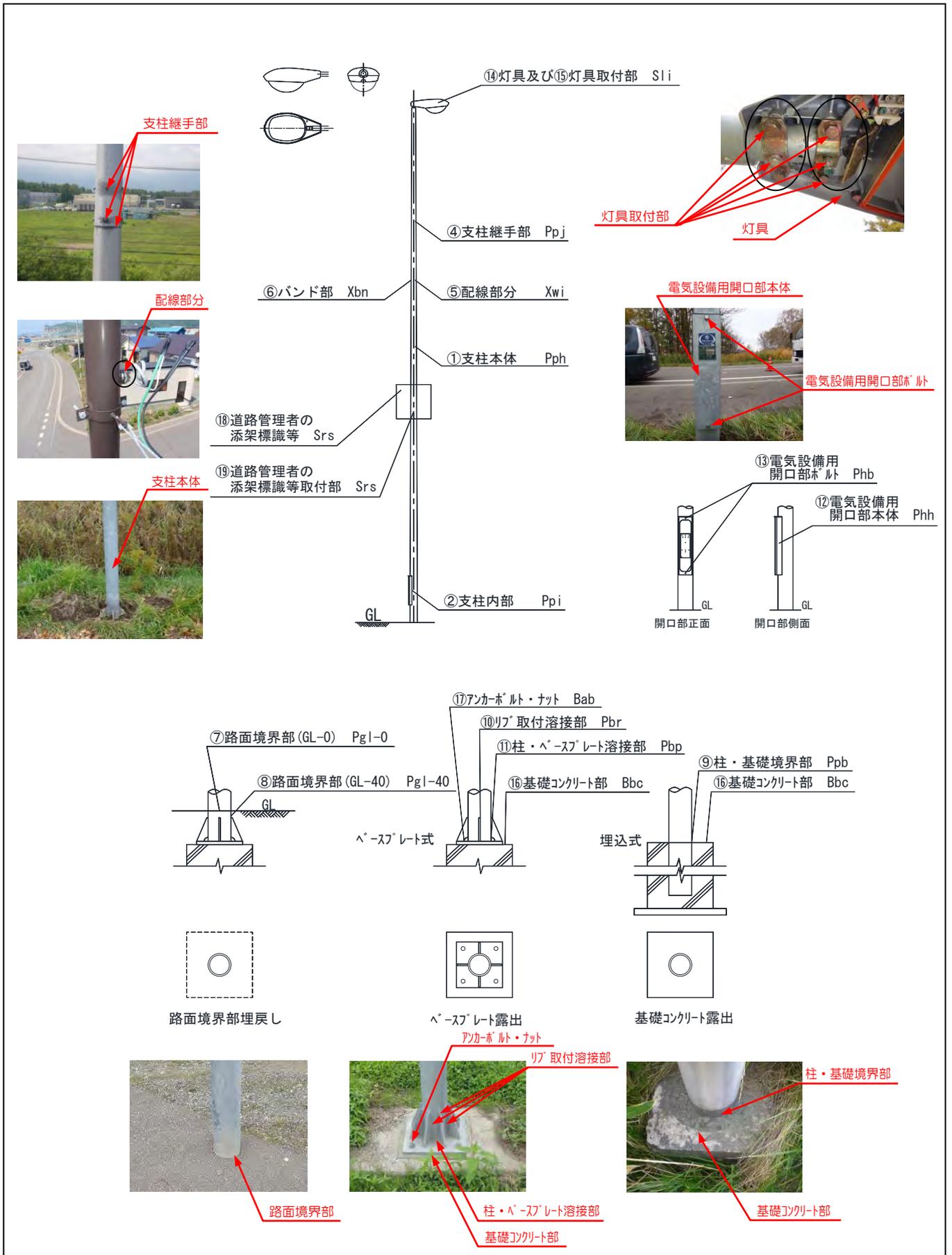


図-5 主な点検箇所 (道路照明施設：直線型)

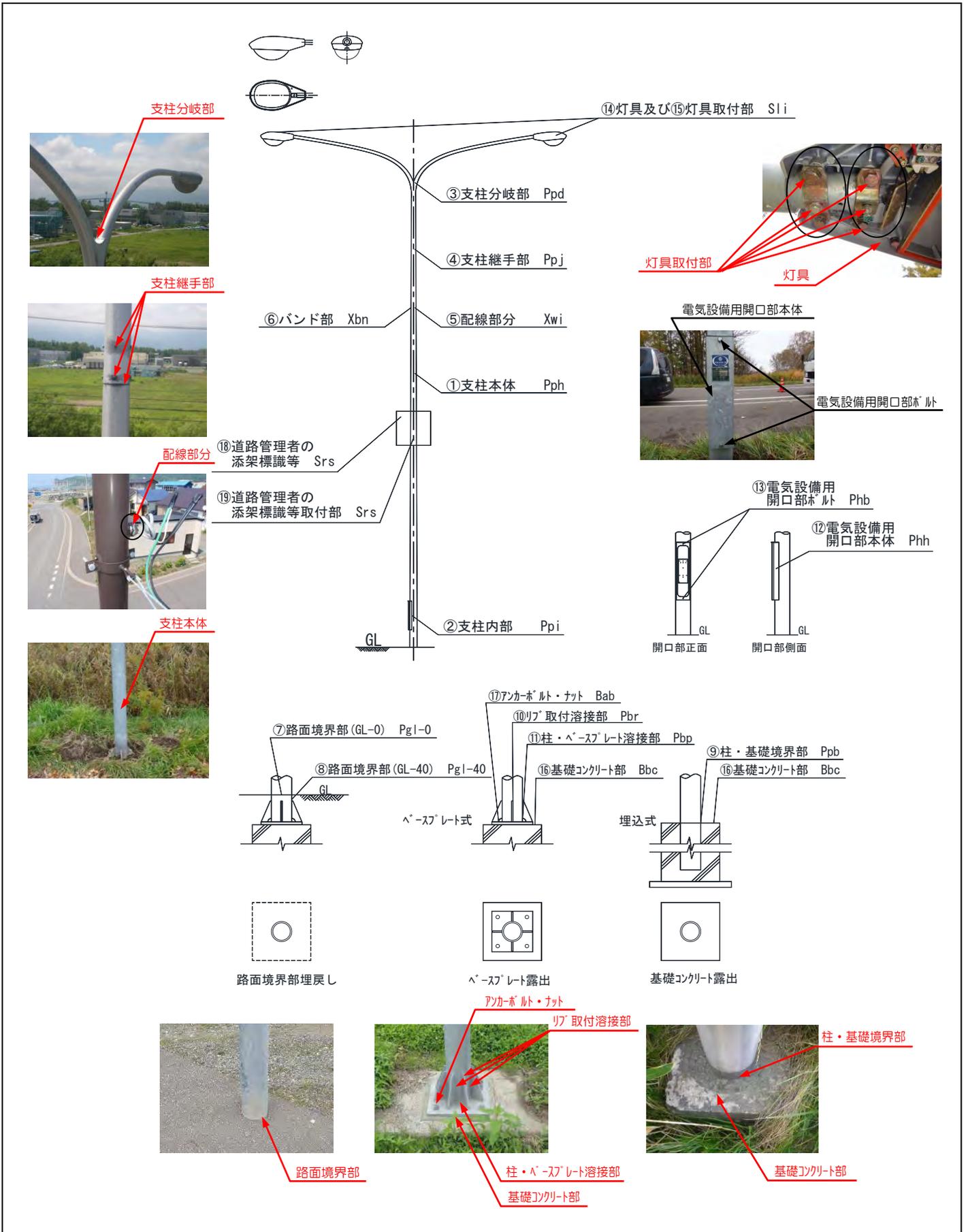


図-6 主な点検箇所（道路照明施設：Y型）

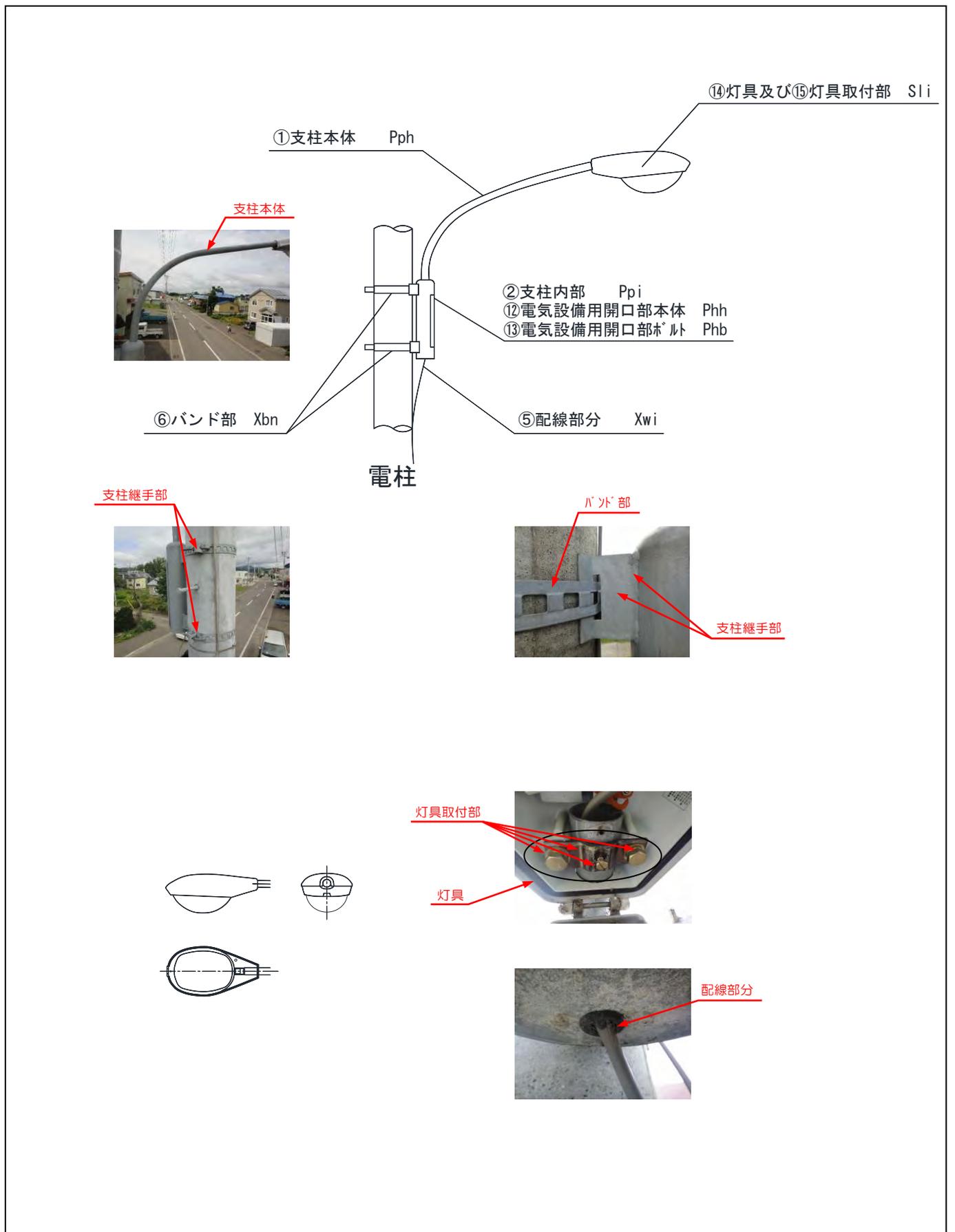


図-7 主な点検箇所（道路照明施設：共架型）

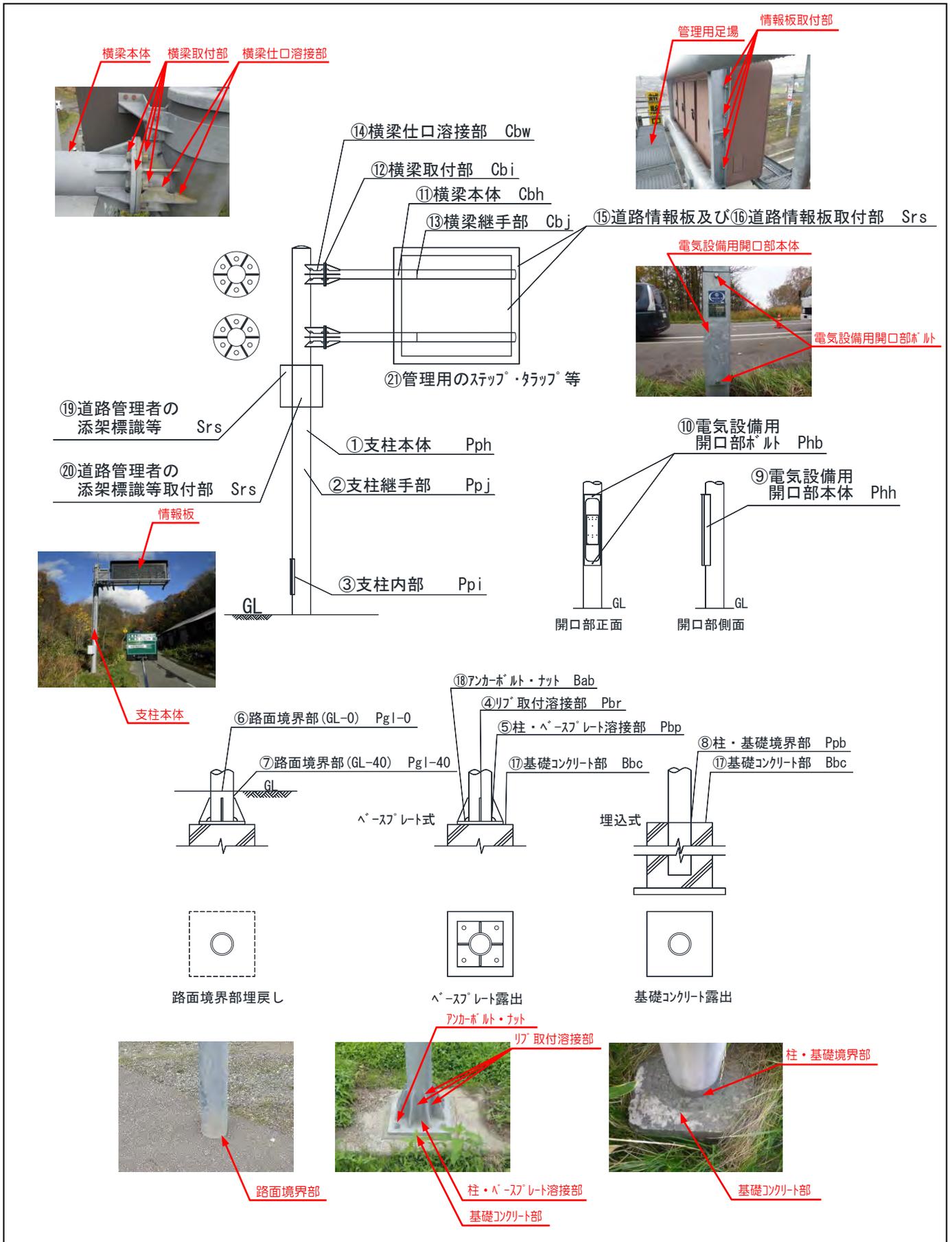


図-8 主な点検箇所 (道路情報提供装置 : F 型)

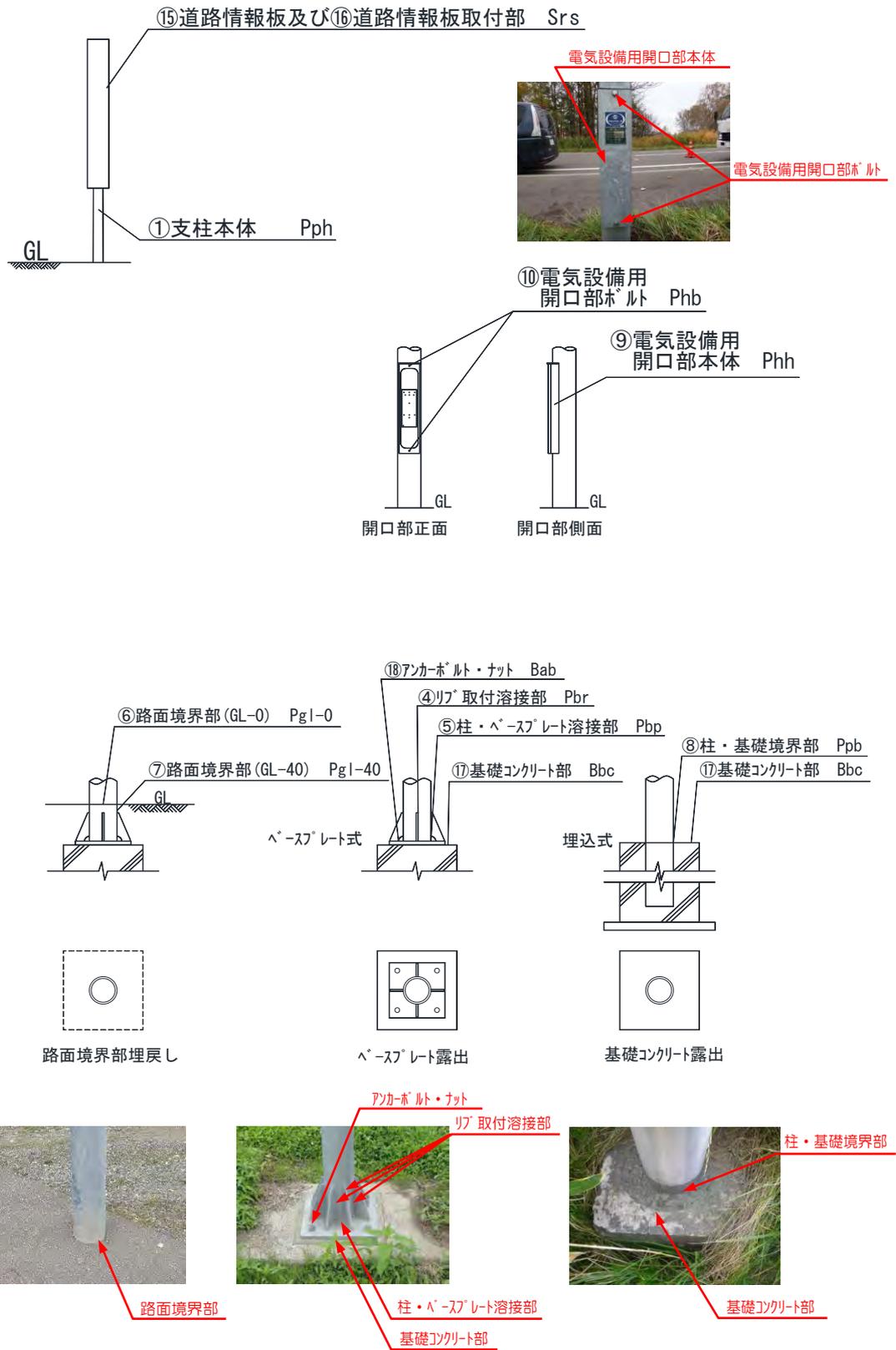


図-9 主な点検箇所（道路情報提供装置：直線型）